

■宗旨と沿革

当寺は、平安時代、仁平元年（1151年）に信立寺と称し、逸見玄源太清光の創建になる天台宗寺院で、清光の没後、清光寺に改められた。その後、文明7年（1475年）、興因寺（甲府市）二世悦堂宗穆和尚が開山となり、曹洞宗に改め、現在に至る。

清光は甲斐源氏の祖、新羅三郎義光（八幡太郎義家の弟）の孫にあたり、最初、常陸国武田郷（茨城県ひたちなか市）にいたが、父義清と共に甲斐国市河庄（西八代郡市川三郷町）に配流となる。

その後、谷戸城を築き逸見郷を中心に勢力を広げ、国中を手中に治めて甲斐の国一円を統一し、甲斐源氏としての基礎を固める。次男信義が名門武田家の祖となる。

現在の堂宇は、江戸中期に建てられた総門、山門、本堂を中心に総ひのき造りの庫裡、開山堂、位牌堂を併設した檀信徒会館などがあり、特に本堂は十三間・九間という本山なみの大伽藍を誇る。

本尊は薬師如来、寺宝に勝頼公制札等。本堂裏山に開基清光公の墓地。境内には芥川龍之介の句碑、樹齢200年程のしだれ桜、大島桜、八重桜、こぶし、紫陽花などがあり、花の時期は大変美しい。



本堂(内部)

■寺山号の起源

清光公42の厄年一字を創立して、かねて孝妣の菩提を托せられし宗甫阿闍梨を始祖となし、現当の利益を祈願するの道場となす。これを信立寺という。誠に帰宗に出ずる、寺号において知るべし。しかるに公の没後、里人これと呼んで「キヨミツデラ」という。自然に信立寺の改称となれり。いまだしらず。自から清光寺と称せしや、はた発信創立の故に人呼んで信立寺といいしや否や。かつ山号のごときは、生前谷戸城において自から毎朝、朝陽を遥拝して武門の名声宇内に光榮するを祈念せりと。けだししからん。しかる故に、東方に位する薬師瑠璃光如来を開創の道場に勧請する。まことにゆえあるなり（下略）。

（記：33世大道祖仙）



逸見冠者玄源太清光公像



勝頼の制札（北杜市指定文化財）戦国時代後期（天正3年）
武田勝頼が当寺を保護するために作った。現存するものでは最古のもの。



檀信徒会館 平成12年8月竣工



開山堂 位牌堂

1 清和源氏系図

清和天皇 — 貞純親王 — 源 経基 — 満 仲
頼 信 — 頼 義 — 義 光 — 義 清 — 清 光

2 清光の諸子とその分派した地方

清光 — 光長 — 逸見太郎・小倉太郎・上総介、逸見の本領（今の高根・須玉町）
— 信義 — 武田太郎・駿河守護、武川庄武田（今の韮崎市）
— 遠光 — 加賀美次郎・信濃守・加賀美庄（今の南アルプス市）
— 義定 — 安田三郎・遠江守護・遠江守・下総守・安田・加納両庄（今の山梨市・牧丘町）
— 清隆 — 平井四郎・平井郷（今の笛吹市石和内・また大八幡庄一部も領した）
— 長義 — 河内五郎・対馬守護・河内郷（今の笛吹市石和町内）
— 巖尊 — 曾根禪師・曾根郷（今の甲府市）
— 義行 — 奈胡十郎・八条院藏人・奈古庄（今の南アルプス市）
— 義成 — 浅利余一、浅利郷（今の中央市）
— 信清 — 八代余三、八代郷（今の笛吹市八代町）



総門 享和元年建立 平成5年12月8日改修落成（北杜市指定文化財）



当寺開基 清光公墓所



清光公ゆかりの馬蹄石